

出産した女性による妊娠糖尿病への 認知の実態と支援の課題

公益社団法人 日本看護協会
健康政策部 助産師課

村中峯子, 鶴見 薫, 北岡 朋, 山西雅子, 早川ひと美, 福井トシ子

1



日本糖尿病・妊娠学会 COI 開示

筆頭発表者名：村中 峯子

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

I. 目 的

○増加している妊娠糖尿病に関する妊産婦の認知を明らかにする。

○妊娠糖尿病とされた対象者への支援について課題を明らかにする。

3

II. 方 法

調査方法：インターネット調査（無記名自記式アンケート）

調査期間：2014年1月16日（木）～20日（月）

調査対象：インターネットサイトの会員で、調査時点から過去1年以内に出産経験のある女性

調査内容：

- 属性、妊娠糖尿病の認知の有無、妊娠糖尿病検査の有無。
- 妊娠糖尿病と診断された対象者が希望する支援等。

調査地域：全国

分析方法：記述統計（分析ソフト「ASSUM」VER.4.502使用）
有意差検定5%水準を有意差ありとした。

分析対象：調査期間に回答のあった1,856名（各質問ごとに回答者ベースで集計。そのためN数は質問ごとに異なる。）

倫理的配慮：調査協力は任意とし、無記名で調査・分析を行った。公益社団法人日本看護協会 研究倫理委員会の承認を得た。

4

Ⅲ. 結 果

1. 対象者の属性（全回答者）

2. 妊娠糖尿病の認知（全回答者）

3. 妊娠糖尿病の実態

（妊娠糖尿病と診断された回答者）

※本発表中の表記について

1. 有意水準を95%または99%とし、下記のとおり標記

※グラフ表中の数値は特に断りが無い限りは、%(パーセント)とする。

※数表では、全体と比較した検定の結果を掲載している。

▲ : 全体と比べ有意に高い(99%水準)

▼ : 全体と比べ有意に低い(99%水準)

△ : 全体と比べ有意に高い(95%水準)

▽ : 全体と比べ有意に低い(95%水準)

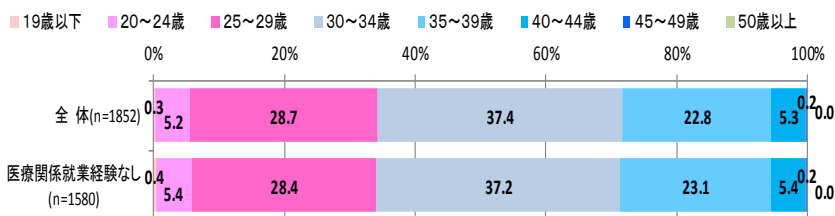
2. n数は、無回答を除いた数値とした。

2014年妊娠糖尿病に関する調査 報告書 | February 2014

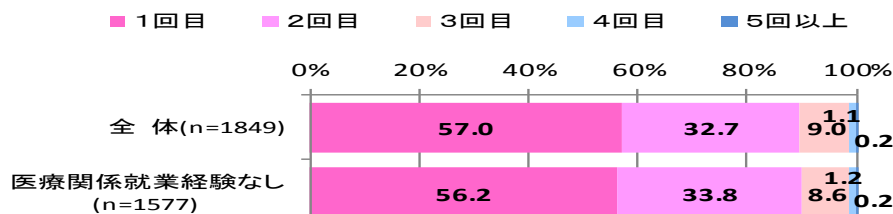
5

対象者の属性（出産時年齢・出産回数）

■ 出産時の年齢



■ 出産回数

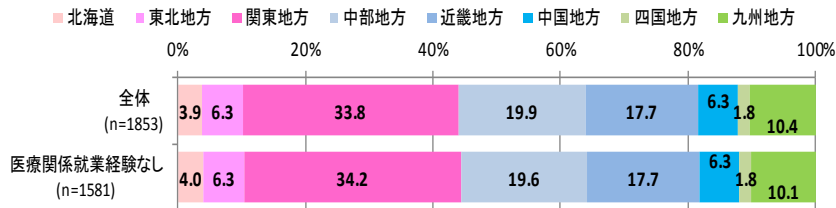


2014年妊娠糖尿病に関する調査 報告書 | February 2014

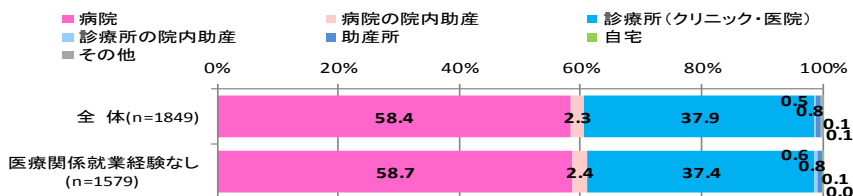
6

対象者の属性（出産した地域・医療機関）

■ 出産した地域



■ 出産した医療機関

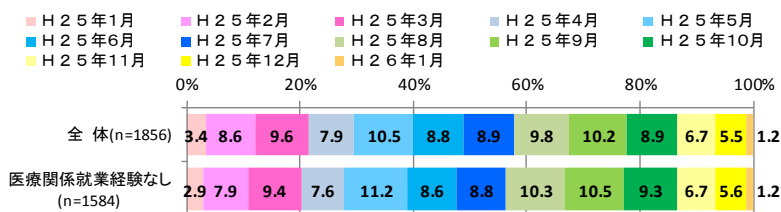


2014年妊婦糖尿病に関する調査 報告書 | February 2014

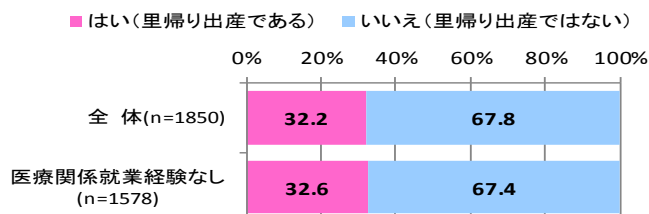
7

対象者の属性（出産した時期・里帰りの有無）

■ 出産した時期



■ 里帰り出産の有無



2014年妊婦糖尿病に関する調査 報告書 | February 2014

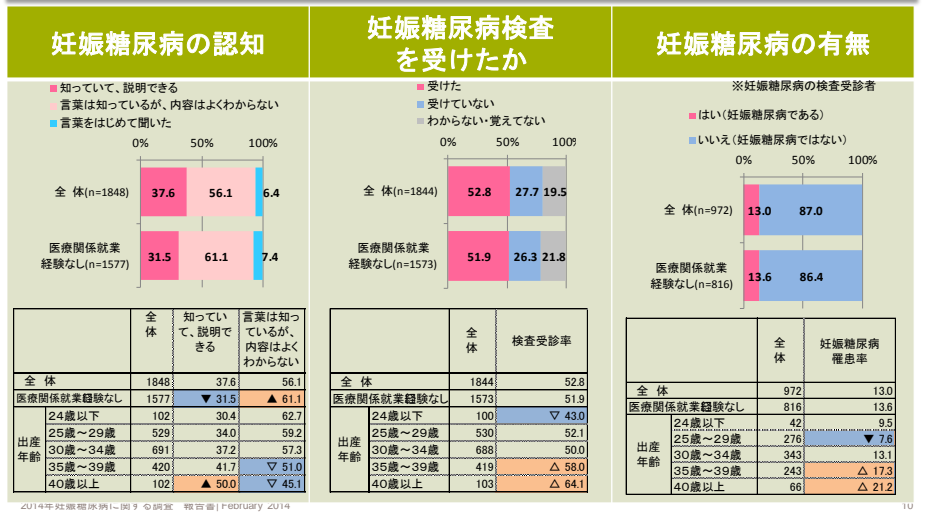
8

Ⅲ. 結 果

1. 対象者の属性
2. 妊娠糖尿病の認知（全回答者）
3. 妊娠糖尿病の実態
（妊娠糖尿病と診断された回答者）

妊娠糖尿病の認知／検査／妊娠糖尿病診断の実態

- ◆「妊娠糖尿病」という言葉の認知率は9割を超えるが、「知っていて、説明できる」人は37.6% (n=1,848)
- ◆医療関係非従事者においては31.5% (n=1,577)
- ◆妊娠中に糖尿病の検査を実施した率は52.8% (n=1,844) ※尿糖、随時血糖検査、HbA1c検査、75gOGTT検査のいずれか
- ◆妊娠糖尿病という診断を受けたのは126名13.0% (n=972)。(※糖尿病の妊娠が含まれていた可能性は否定できない)
- ◆認知率、検査実施率、診断率ともに、出産年齢別では40歳以上>35歳以上>30歳以上で高齢者に有意に高い

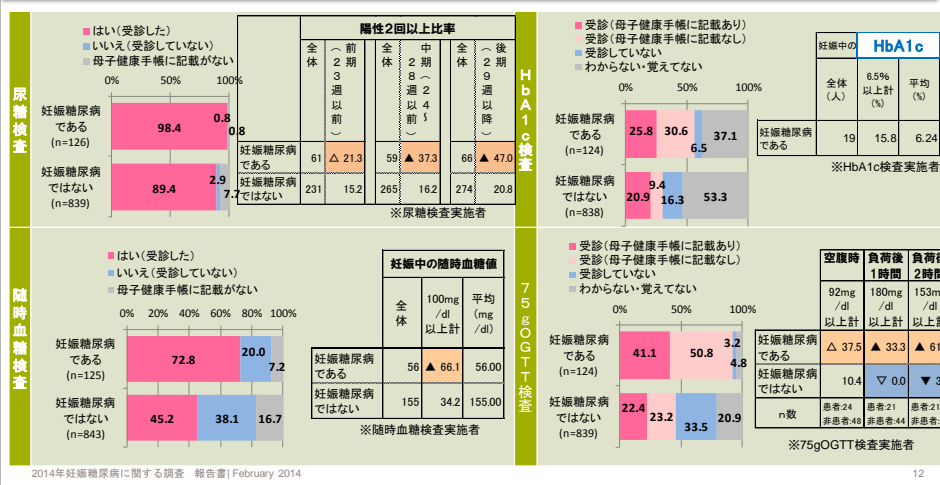


Ⅲ. 結 果

1. 対象者の属性
2. 妊娠糖尿病の認知
3. 妊娠糖尿病の実態
(妊娠糖尿病と診断された回答者)

各種検査の実施率と結果（妊娠糖尿病患者）

- ◆尿糖検査は98.4%が実施。陽性2回以上は、妊娠前期では2割、中期では4割弱、後期では約半数の47.0%。随時血糖検査は7割強が実施。100mg/dl以上の比率は7割弱程度。
- ◆HbA1c検査は55%が実施。(母子健康手帳に記載があったのは25%)
- ◆HbA1c値6.5%以上は15%程度、10.0%以上は10%程度。
- ◆75gOGTT検査は、約9割が受診。(母子健康手帳に記載があったのは4割程度)
- ◆空腹時の92mg/dl以上は4割弱、負荷後1時間180mg/dl以上は3割強、負荷後2時間の153mg/dl以上は6割強程度。



妊娠糖尿病の実態（診断された割合と属性別傾向）

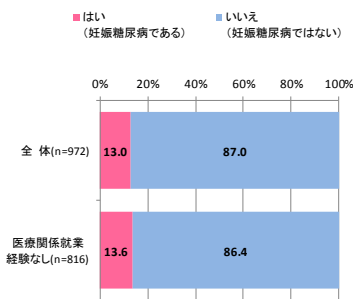
◆調査対象者の妊娠糖尿病検査実施者の中で「妊娠糖尿病である」と診断された割合は13.0%。

属性別の傾向

出生年齢：高齢層ほど診断率が高まる傾向がみられ、20代では1割以下、40代以上においては21.2%

出産医療機関別：病院では診断率が17.3%であるのに対し、診療所においては5.5%

検査を「受けた」と回答した方にお聞きます。あなたは、「妊娠糖尿病である」といわれましたか。いずれかを選択してください。（1つだけ）



※妊娠糖尿病の検査受診者ベース

	Q14. 「妊娠糖尿病である」といわれましたか		
	全体	はい (妊娠糖尿病である)	いいえ (妊娠糖尿病ではない)
全体	972	13.0	87.0
医療関係就業経験なし	816	13.6	86.4
24歳以下	42	9.5	90.5
25歳～29歳	276	▼ 7.6	▲ 92.4
30歳～34歳	343	13.1	86.9
35歳～39歳	243	▲ 17.3	▼ 82.7
40歳以上	66	▲ 21.2	▼ 78.8
病院	601	▲ 17.3	▼ 82.7
医療機関	27	7.4	92.6
診療所(クリニック・医院)	328	▼ 5.5	▲ 94.5
北海道	51	9.8	90.2
東北地方	59	16.9	83.1
関東地方	341	12.3	87.7
中部地方	167	15.6	84.4
近畿地方	168	10.1	89.9
中国地方	60	6.7	93.3
四国地方	18	22.2	77.8
九州地方	108	16.7	83.3

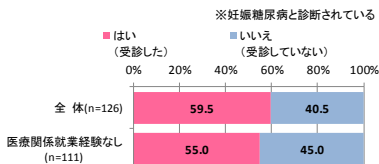
出産後の血糖検査受診の実態

◆妊娠糖尿病と診断された対象者が分娩後1年以内に血糖検査を受診する割合は6割程度。（医療関係非従事者では55.0%）

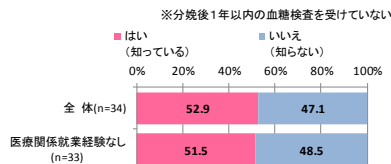
◆4割程度は分娩後の血糖検査を受けていない。

◆分娩後1年以内に血糖検査を受けなかった人のうち、半数程度は受診できそうな医療機関を知っていると回答。残りの半数程度は、血糖検査ができそうな医療機関を知らないと回答。

妊娠糖尿病である、と回答した方にお聞きます。分娩後1年以内に受診をし、血糖検査をしましたか。いずれかを選択してください。



産後、妊娠糖尿病について受診できそうな医療機関を知っていますか。いずれかを選択してください。



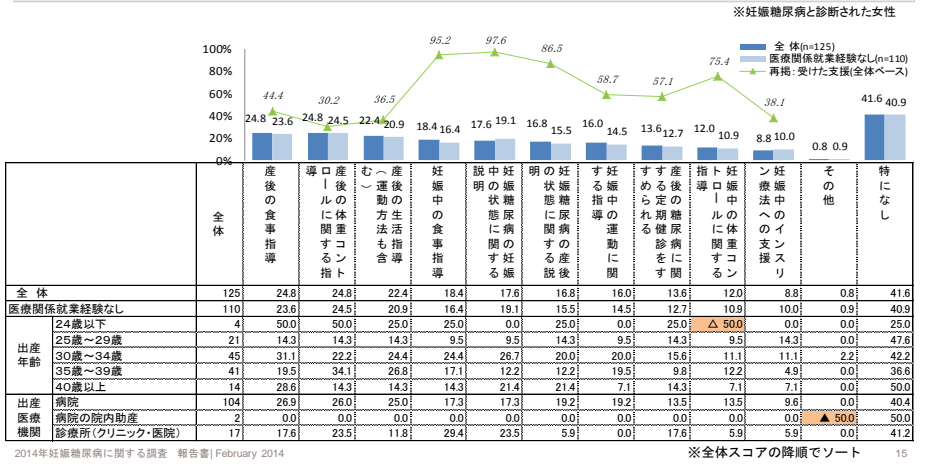
	Q18. 分娩後1年以内に受診し血糖検査をしましたか		
	全体	はい (受診した)	いいえ (受診していない)
全体	126	59.5	40.5
医療関係就業経験なし	111	55.0	45.0
24歳以下	4	50.0	50.0
25歳～29歳	21	▼ 38.1	▲ 61.9
30歳～34歳	45	53.3	46.7
35歳～39歳	42	73.8	26.2
40歳以上	14	71.4	28.6
病院	104	66.3	33.7
医療機関	2	50.0	50.0
診療所(クリニック・医院)	18	▼ 22.2	▲ 77.8

	Q20. 産後、妊娠糖尿病について受診できそうな医療機関を知っていますか		
	全体	はい (知っている)	いいえ (知らない)
全体	34	52.9	47.1
医療関係就業経験なし	33	51.5	48.5
24歳以下	1	0.0	100.0
25歳～29歳	9	22.2	77.8
30歳～34歳	14	71.4	28.6
35歳～39歳	7	42.9	57.1
40歳以上	3	100.0	0.0
病院	23	65.2	34.8
医療機関	1	0.0	100.0
診療所(クリニック・医院)	9	33.3	66.7

妊娠糖尿病への「受けた支援」と「受けたかった支援」

- ◆妊娠糖尿病患者が支援を希望するもの（支援を受けなかったが受けたかった、または、もっと受けたかったもの）としては、「産後の食事指導」と「産後の体重コントロールに関する指導」が共に24.8%、「産後の生活指導」は22.4%。
- ◆産後の指導や支援全般は、現状では低率であるが、「支援を受けなかった」とする率は約25%。

妊娠糖尿病である、と回答した方にお聞きします。実際にはなかったが、支援を希望する項目、もしくは、もっと支援を受けなかった項目があれば、すべて選択してください。（いくつでも）



妊娠糖尿病への支援内容と支援者

- ◆「妊娠糖尿病の妊娠中の状態に関する説明」は産科医師からが8割、内科医師から約5割受けている。
- ◆「妊娠中の食事指導」は約7割が栄養士から受けている。
- ◆「妊娠糖尿病の産後の状態に関する説明」は、産科医師と内科医師がともに5割強でほぼ同率である。
- ◆「妊娠中のインスリン療法への支援」に関しては看護師からの支援率が35.4%。

妊娠糖尿病である、と回答した方にお聞きします。それぞれの支援内容について、医療者から受けた支援項目があれば、誰からその支援を受けたか選択してください。（それぞれいくつでも）

※妊娠糖尿病と診断された対象者

	全体 (人)	産科医師	内科医師	助産師	看護師	助産師から看護師不明)	栄養士	その他
妊娠糖尿病の妊娠中の状態に関する説明	123	79.7	46.3	20.3	18.7	5.7	24.4	2.4
妊娠中の食事指導	120	28.3	25.8	18.3	15.8	1.7	71.7	1.7
妊娠糖尿病の産後の状態に関する説明	109	55.0	53.2	8.3	10.1	2.8	5.5	2.8
妊娠中の体重コントロールに関する指導	95	58.8	37.9	25.3	15.8	9.5	29.5	1.1
妊娠中の運動に関する指導	74	41.9	35.1	29.7	18.9	4.1	24.3	1.4
産後の糖尿病に関する定期健診をすすめる	72	38.9	65.3	6.9	5.6	2.8	2.8	2.8
産後の食事指導	56	30.4	42.9	12.5	14.3	0.0	28.6	1.8
妊娠中のインスリン療法への支援	48	33.3	66.7	22.9	35.4	6.3	6.3	6.3
産後の生活指導(運動方法も含む)	46	28.3	50.0	21.7	10.9	0.0	8.7	2.2
産後の体重コントロールに関する指導	38	21.1	50.0	13.2	10.5	0.0	15.8	5.3

■ :60%以上 ■ :50%以上 ■ :20%以上 (回答はMA)

Ⅳ 考 察

- 妊娠時の妊娠糖尿病に関する認知は十分とはいえない。
- 妊婦健診時の医療従事者間の連携が重要。妊娠糖尿病の状態や妊娠経過等を看護師間で直接連携できる体制の構築が望まれる。
- 支援者・ケア提供者等が一堂に会してカンファレンスを行い方向性を確認できる体制の構築や、里帰り出産も視野に情報の一元化と活用の仕組みづくり等、看護職者同志の連携、管理栄養士・栄養士、薬剤師間の連携、多職種での支援体制等が必要。
- ケアを提供している場の設定を柔軟にし、連携を強化するため、関係者の組織横断的なケア提供が望まれる。
- 支援者・ケア提供者が妊娠糖尿病について学ぶための環境の整備、継続教育システムの導入が急務である。
- 加えて、妊娠糖尿病支援を契機として自治体の保健師等、地域のケア提供者を巻き込んだ育児期の支援体制の構築が求められる。

V 結 論

- 妊娠糖尿病に関する認知は十分とは言えない
- 妊娠中から多職種による支援・ケア提供が重要
- 支援者・ケア提供者の妊娠糖尿病の理解と継続教育が必要
- 妊娠中から産後のフォローアップに至るまで、ワンストップで支援・ケア提供のできる体制構築が急務